組合員理事を経験して

平光 佐知子
生活協同組合コープあいち 副理事長

私は、コープあいちが誕生した2010年の2年前になる2008年に組合員理事になりました。その後、地域区理事4年、全体区理事4年、非常勤副理事長5年と計13年間関わっています。

組合員理事に就任した2008年は、中国冷凍ギョーザ事件も起き、合併の話が頓挫するのではないかと言われるほど生協内部は混乱していました。めいきん生協・みかわ市民生協の二つの生協の合同理事会を何度も重ねる中で、両生協の組合員全員の賛同を得る！という事務局の奮闘もあり、決め手はある組合員理事の「不易流行」の言葉を引用した“共に前に進んでいきましょう”の発言でした。これらにより、晴れて2010年3月21日に組合員37万人・事業高570億円の「コープあいち」が誕生しました。この時はつくづく組合員の力と組合員理事の潔さに感銘を受けたものです。

それから早や13年、組合員理事になってからは私の人生観がガラリと変わるほど色々なことがありました。ここまで続けてこられたのは、普通の主婦が自分次第でレベルの高い社会参加ができる、生協にはそういう環境があるという大きな発見があったからだと思います。全国様々な地に赴いて生産者の方々と交流ができたり、NPT再検討会議が開催されるニューヨークに被爆者の方々のサポート役ということで生協代表団の一員として渡米したり、行政の様々な委員会に参加して意見を述べる、自生協を代表してご挨拶をするなど、日常とは違う場面にめぐり逢い、それなりな緊張感を持ちながら臨み、失敗も含めその時々を大切に過ごすことで成長した自分を感じることができました。また、それらを通じて全国の生協組合員理事と知り合えたこともかけがえのない財産です。

しかし、そんな楽しい話ばかりではなく、むしろ苦労や悩みの方が多いのが理事活動です。

各人が全く違う生活背景を持ち、それぞれの要求で加入した50万人を超える組合員の多種多様な声を具体的な事業や活動として形にしていくことの途方もない困難さ。また、

常勤、非常勤の、立場が違えば物の見方も違う、表現の仕方も違えば受け止め方も違う中で夫々が向き合ってよりよい結論を導き出すことが求められる理事会。トップダウンの一般企業と違い、組合員が主体となる協同組合では、この理事会に組合員理事がいること、そしてこの組合員理事がどういう思いで参加できる理事会であるかが、その生協の本質であると思います。この理事会を形成する、いわゆる理事会に議案の提案責任のある常務理事会の質と言いますか、誠実さはそのまま理事会議論の質や結果として表れます。もちろん、有識者理事など多様な考え方を持つ理事で構成されているのが理事会ですので、その中の一員として節度を持って質問や意見を出し、よりよい着地点を導き出す努力をすることが本当の社会参加と言いますか、自分が磨かれる場ではないかと、だんだんと思うようになりました。

また、理事会での議決には個人として納得していなくても従う、これは理事であれば当然の規範です。組合員理事には組合員に説明責任があり、理事会で決まったことを分かり易く伝える役割があります。が、当然納得しない組合員もいるわけで、そういう時に組合員に言われたことを理事会に運ぶだけでは、組合員理事の役目を果たしていることにはなりません。フェスタやつどいなど組合員が集まる場に出かけて様々な声を聞く、行政や事業連合など他の組織の理事会や委員会に参加するなど、組合員視点で、地域の中での自生協の見方や自生協全体を俯瞰して見て、それらを総合的に考え、その時々の経営状況も踏まえ理事会に臨むことが大切と思います。

時代は令和になり、くらしを取り巻く環境は大きく変わりました。生協法が改正された2008年以降、理事会の権限が強化された中で組織自体も大きくなり、それまで“組合員活動のリーダー”的な存在であった組合員理事は“法人の理事”としての役割に変化しました。組合員視点で生協の基本政策や重要な意思決定に参画することに重きが置かれています。

そのことも合わせ、組合員理事そのもののあり方も、キチンと明確化されないといけない時期に来ていると感じています。主婦のほとんどが就業する現代において、任期がある中でそれなりの役割を果たすには、それ相応の処遇などを鑑みておく必要があるのではないかと思っています。ジェンダー平等からも、日本は世界153カ国中120位、G7ダントツ最下位、生協も組合員や組合員理事はほとんど女性なのに常勤理事になるとほぼ男性ばかり。その昔から男女平等を掲げ、女性の地位向上を叫んできた組織であれば、今頃は日本の中でも先進的な存在になっていてもおかしくないはずなのに、まだまだ道のりが遠い気がしています。

毎年年末に開催されます、全国の組合員理事が京都に一堂に会し学び合う場として、この季刊誌の発行元であるくらしと協同の研究所主催の「組合員理事トップセミナー」があ

ります。このセミナーが始まった趣旨は、「女性トップの位置や役割の重要性を一緒に考え、能力を高めていこうと問題意識を出し合い、取り組み、作り上げ、それに研究所の先生方が支援する形で進めていきましょう」でした。今も、「生協の中でトップとして力を発揮する人材が育ってほしい、トップの考え方を学んでほしい」という願いから「トップセミナー」の名前は変わらずにいます。改めて、これからの時代に合った組合員理事のあり方を早急に考えなければいけないと思っています。

そんな問題意識をここ数年持ち続けていますが、皆さんには、貴重なご縁で組合員理事になっていただいた期間を存分に楽しんで過ごしていただきたいと思っています。

私の大好きな、生協の持つ「困った時はお互い様」の相手を思いやる心や、お互いを認め合い尊重し合い感謝しあう姿勢、そして、一人の百歩より百人の一歩と言われるみんなで取り組む協同の精神は、人として生きていくうえで大切な考え方であり、そしてこれは、SDGs に言われる「持続可能な社会づくり」になくてはならない考え方として、ますます重要になっていくと思います。

せっかく組合員理事になったのですから、この組織に関わっていることを誇りに感じ、自分の時間として楽しみ、成長の場として積極的に学び交流することで、是非、今を生きる人生の糧として輝けるものにしていただけると嬉しく思います。是非、ご一緒に頑張りましょう！